

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	19	本人を共に支え合う家族との関係 コロナ禍で近況報告は「ほたるだより」や電話連絡、物品持参時のみである。近況報告以外にもほたるでの暮らしがより良くなるよう、家族と共に考えていくことが求められる。	家族と職員、家族と入居者の関係が薄くならないよう、介護計画やその他のケアにも家族の意見を取り入れた支援を行い、家族へも報告を行うことで、発信した意見が活かされていると感じていただき、対等な立場で関われるようにしていく。	・月1回だけではなく、こまめに担当職員から電話連絡を行う。 ・面会制限緩和時には、面会に来ていただくことを積極的に発信したり、電話以外で直接担当と話せる場を設ける。	6か月
2	20	馴染みの人・場との関係継続の支援 面会制限のある中で、窓越しの面会や外出ではドライブに行く等しているものの、車外には出ていない。(以前はコロナ対策であったが、その後は職員退職等で不足のため、無理に車から降ろすことでのリスクが大きい)	4月に職員増となった時点で、馴染みの場所へ一人1～2回は行けるよう計画をする。馴染みの方の面会のお断りや遠慮させることがないようにし、面会できる環境を整える。	・場所は今からでも入居者や家族へ確認する。 ・馴染みの方との面会ができるよう、緩和時には、家族へも面会制限緩和等の状況を伝え、面会が可能になったことを伝えられるよう、情報提供をしていく。	6か月
3	7	身体拘束適正化委員会等で意識しているものの、家族が館内に入ることができない状況である中で、ニュース等でも虐待等の情報が多くあり、心配されていると思うが、外部の目が届かない状況にあるため、課題にすることで全職員で意識して対応していきたい。	入居者の行動や病状だけではなく、皮膚状態やケアする環境面を見直し、職員間で良くするための方法や手段を都度話すことで、ケアの質を上げたい。	・統一ノートがあるものの、記載自体が減っているため、内容の見直しと活用方法について再周知をする。 ・ケアプランの留意事項等にも、対応や気をつけて観察してほしい点を記載しているため、その内容を改めて実践に移す。 ・ユマニチュード技法は引き続き継続して対応していく。	12か月
4					か月
5					か月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。